

情報学学位プログラム (博士前期課程)
Master's Program in Informatics

授与する学位の名称	修士 (情報学) [Master of Science in Informatics]	
人材養成目的	人間の活動において情報は重要な役割を果たして来たが、近年の技術の進展とともにその重要性は急激に増している。その様な状況に対応するため情報学学位プログラム (博士前期課程) では、文理融合の学際的アプローチにより情報を学術・教育・生活・文化等に活用するための専門的業務に携わる人材を養成する。	
養成する人材像	人間と情報に関わる諸問題を理解し、専門知識・技術を身につけ、課題を遂行できる人材 ・最新の情報技術を駆使してデータ解析、システム開発、メディア制作を行うことができる人材 ・人間と情報の相互作用をふまえたコミュニティに最適な情報環境を提案できる人材 ・歴史と文化の多様性を理解し、知識情報資源の共有と継承を担うことができる人材	
修了後の進路	博士後期課程進学者、研究者、大学教員 データサイエンティスト、IT・メディア系エンジニア、コンサルタント等の情報専門職、図書館・博物館・アーカイブズ等における専門的業務従事者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた (または役立てようとしている) か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	データサイエンス実践、知識情報分析、コミュニティ分析、文献調査法、Literature Survey、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、記録情報管理、情報学特別演習 A、情報学特別演習 B、情報学特別演習 C、情報学特別演習 D、修士論文作成など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	機械学習とパターン認識、パブリックサービス、ライブラリマネジメント、学術情報基盤、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、研究計画、業務計画、記録情報管理、情報学特別演習 A、情報学特別演習 B、情報学特別演習 C、情報学特別演習 D など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かり易く伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	感性認知情報、コミュニケーション行動、パブリックサービス、文献調査法、業務計画、コンテンツ開発、情報学特別演習 A、情報学特別演習 B、情報学特別演習 C、情報学特別演習 D、グローバル研究演習 Ia、グローバル研究演習 Ib、グローバル研究演習 IIa、グローバル研究演習 IIb、学会発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	パブリックサービス、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、コンテンツ開発、情報学特別演習 A、情報学特別演習 B、情報学特別演習 C、情報学特別演習 D、TA 経験など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	知的財産と情報の安全、学術情報基盤、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、文献調査法、Literature Survey、情報学特別演習 A、情報学特別演習 B、情報学特別演習 C、情報学特別演習 D、グローバル研究演習 Ia、グローバル研究演習 Ib、グローバル研究演習 IIa、グローバル研究演習 IIb、大学院共通科目 (国際性養成科目群)、語学力養成科目、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目など
6. 意味的研究力: 適切な手法でデータを意味的に分析する能力	① 研究のためのデータを入手し、意味的に分析するための手法を適切に選択できるか ② 分析結果から目的に応じて合理的な解釈を得ることができるか	メディアデザイン、感性認知情報、知識情報分析、コミュニティ分析、デジタルヒューマニティーズ、知的財産と情報の安全、図書館メディア文化史、ライブラリマネジメント、学術情報基盤、アーカイブズ、博物館情報メディア、情報組織化、メディア教育、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、研究計画、記録情報管理、情報学特別演習 A、情報学特別演習 B、情報学特別演習 C、情報学特別演習 D、グローバル研究演習 Ia、グローバル研究演習 Ib、グローバル研究演習 IIa、グローバル研究演習 IIb など

7. 数理的研究力:適切な手法でデータを数理的に分析する能力	① 研究のためのデータを入手し、数理的に分析するための手法を適切に選択できるか ② 分析結果から目的に応じて合理的な解釈を得ることができるか	データサイエンス実践、機械学習とパターン認識、ビジュアライゼーション、生体生命情報、構造化データ、情報アクセス、情報ブラクティス、情報推薦、ヒューマンコンピュータインタラクション、コミュニケーション行動、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、調査とデータ分析、Survey and Data Analysis、研究計画、情報学特別演習A、情報学特別演習B、情報学特別演習C、情報学特別演習D、グローバル研究演習Ia、グローバル研究演習Ib、グローバル研究演習IIa、グローバル研究演習IIbなど
8. メディア専門知識: 社会システムへの応用を意識して、新しいメディアを開発する専門知識	① メディアやネットワーク技術が社会に及ぼす影響を説明できるか ② 情報デザインや社会への影響を踏まえてメディア開発できるか	データサイエンス実践、メディアデザイン、ビジュアライゼーション、生体生命情報、感性認知情報、情報ブラクティス、ヒューマンコンピュータインタラクション、コミュニケーション行動、コミュニティ分析、図書館メディア文化史、ライブラリーマネジメント、アーカイブズ、博物館情報メディア、メディア教育、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、文献調査法、Literature Survey、研究計画、コンテンツ開発など
9. システム専門知識: 人間と情報の相互作用を多面的に分析し、システムを設計する専門知識	① 人間の情報行動を計算論的モデルとして構築できるか ② 人間と情報の相互作用を踏まえた新しいサービスシステムを提案できるか	ビジュアライゼーション、構造化データ、情報アクセス、情報ブラクティス、情報推薦、ヒューマンコンピュータインタラクション、デジタルヒューマニティーズ、学術情報基盤、情報組織化、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、文献調査法、Literature Survey、研究計画など
10. リソース専門知識: 資料をととして歴史・文化の多様性を理解し、知識資源基盤を構築する専門知識	① 歴史と文化の多様性を理解し、情報資源の将来展望を描けるか ② 情報流通の諸課題を理解し、情報マネジメントや情報サービスを評価できるか	データサイエンス実践、構造化データ、情報アクセス、知識情報分析、デジタルヒューマニティーズ、知的財産と情報の安全、図書館メディア文化史、パブリックサービス、ライブラリーマネジメント、学術情報基盤、アーカイブズ、博物館情報メディア、情報組織化、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、文献調査法、Literature Survey、研究計画、業務計画、記録情報管理など
11. 情報倫理観: 情報に対する倫理観と規範意識	① 知的財産権に関する正確な知識を持ち、適切な判断ができるか ② 情報の扱いに関して規範意識の下に行動できるか	知的財産と情報の安全、研究法基礎、Research Foundation in Informatics、業務計画、コンテンツ開発、情報学特別演習A、情報学特別演習B、情報学特別演習C、情報学特別演習D、TA経験など

学位論文に係る評価の基準

以下の評価項目すべてが妥当もしくは達成されたと認められる学位申請論文を、最終試験を経た上で、修士論文として合格とする。

1. 研究テーマの意義
2. 先行研究の把握と理解
3. 研究方法の妥当性
4. 結論とそれに至る論理の妥当性
5. 体裁・構成の適切さ
6. 文献・資料の適切な引用

論文審査の方法は以下のとおりとする。

論文審査は、学位論文ごとに設置される学位論文審査委員会が論文の内容、公開による学位論文発表会、最終試験を総合的に判断して行う。

- 1) 学位論文審査委員会は主査1人及び副査2人以上で構成する。
- 2) 公開による発表は質疑応答を含めて30分程度行う。
- 3) 最終試験は、学位論文を中心に、その関連分野について口述又は筆記により行う。ただし、公開の学位論文発表会をもって、口述試験に代えることができるものとし、必要がある場合は、更に口述試験または筆記試験を行う。

カリキュラム・ポリシー	
<p>文理融合の学際的アプローチにより情報を学術・教育・生活・文化等の人間の諸活動に活用するための専門的業務に携わる人材を養成する目的のために、ディプロマ・ポリシーに示した汎用的知識・能力と専門的知識・能力を獲得させる。汎用的知識・能力は主として大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目や必修の演習科目により、専門的知識は選択の講義科目を中心に獲得させる。なお、春学期入学者向けの日本語によるカリキュラムに加え、秋学期入学者向けの英語によるカリキュラム、東京キャンパスを中心に受講する社会人のためのカリキュラムを一体的に作成する。</p>	
教育課程の編成方針	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は、大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目および、本学位プログラム独自の講義科目としてメディアサイエンス専門科目群、情報インタラクション専門科目群、図書館情報学専門科目群、演習科目として方法論的基盤科目群、実践指導科目群、研究指導科目群から構成する。 大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目などにより知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性という汎用的知識・能力を身に付けさせる。 メディアサイエンス専門科目群（講義科目）により、データの性質を読み取り、目的に適した方法を選択し、分析する能力および、情報システムや社会システムへの応用を意識したうえで、新しいメディアを開発する能力を身に付けさせる。 情報インタラクション専門科目群（講義科目）により、人間の知情意とコンピュータの入出力の相互作用を多面的に分析する能力および、情報サービスや多彩なWebサービスを設計する能力を身に付けさせる。 図書館情報学専門科目群（講義科目）により、歴史・文化に関する資料の意味を読み取り、社会への理解を養い、新たな社会を育てる能力および、図書館、文書館、博物館等の情報サービスや多彩なWebサービスを設計する能力を身に付けさせる。 方法論的基盤科目群（演習科目）は、研究法基礎、文献調査法、調査とデータ分析、実践指導科目群（演習科目）は、研究計画、業務計画、コンテンツ開発、記録情報管理から構成し、研究を遂行するのに必要な研究基礎力を実践的に身に付けさせる。 研究指導科目群（演習科目）は、情報学特別演習から構成し、メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践によって、研究遂行力を身に付けさせる。
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 講義科目は、専門科目群から12単位以上、大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目、他学位プログラム科目、専攻の科目から8単位までを修得する。 演習科目は、方法論的基盤科目群・実践指導科目群から6単位、研究指導科目群から4単位以上修得する。原則的に、方法論的基盤科目群を1年次に履修することによって研究基礎力を固め、研究指導科目群を1・2年次に履修することによって、研究基礎力を地盤とした研究遂行力を身に付ける。 入試区分及び教授言語にかかわらず、所定の単位を修得した場合には、修了要件に含むことができる。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> 各科目はシラバスに記載している評価方法に従って評価する。 汎用及び専門的知識・能力を有することは、年度毎に科目の修得状況及び論文や学会発表を含む活動状況をもとに、専門委員会が確認する。 中間発表は、研究内容、研究方法、プレゼンテーションスキルを指標として評価する。 学位論文審査は、受理した学位論文ごとに、その都度設置される学位論文審査委員会で行う。 最終試験は、学位論文を中心に、その関連分野について口述又は筆記により行う。ただし、公開の学位論文発表会をもって、口述試験に代えることができるものとする。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<ul style="list-style-type: none"> 情報の利活用に深い関心を持ち、文理融合の学際的アプローチにより、問題の解明・解決に取り組もうとする意欲のある人材 情報学または周辺諸科学の基礎知識を持ち、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、語学力を有する人材
入学者選抜方針	<p>英語試験成績、口述試験成績を点数化し、それらの結果を総合的に判定する。なお、所属長の推薦を受けた学士取得見込み者に対する推薦入学試験と、社会的経験を有する者に対する社会人特別選抜では英語試験を免除する。また、10月入学の英語受験者特別選抜では、口述試験にビデオ会議ツールを使用する。</p>